

【事業者名称】グループホーム万葉の里

2008年6月25日評価実施

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営					
I-1. 理念と共有					
1	1	<input checked="" type="checkbox"/> ①地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念には地域や家族との関係を大切に考えることを掲げ、その理念の実践に取り組む努力をしている。	○	家族、地域とのつながりを大切にすることは、具体的にどうすることなのか、利用者個々に異なるプロセスがあることを、職員全体で周知したい。
2	2	<input checked="" type="checkbox"/> ②理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝職員同士で基本理念を唱和している。いつも振り返りができるよう理念を身近なところに掲げている。毎月の職員自身の振り返りができるような自己点検マニュアルがある。	○	管理者と職員が理念の共有や実践についての意見交換や振り返りができるようにする。
3		<input checked="" type="checkbox"/> ③家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には随時グループホームの思いを伝え、地域に向けては見学やボランティアで来所された時などに、地域とのつながりの大切について話をしている。玄関には理念を明示。	○	広報誌は作成しているが運営推進会議や同一事業所内職員、ご家族に配布するに留まっている。地元住民さんに向けた広報紙の配布をしたい。
理念と共有 3項目中 3項目					
I-2. 地域との支え合い					
4		<input type="checkbox"/> ①隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	設置環境が近隣と交わりにくいというハンディがあるが、地元消防団による夜回りや婦人消防団の来訪で詳しくホームのことを説明する機会もあつた。町内の方より野菜の差し入れも頂くことがある。	○	今後もホームの職員が積極的に地域に出かけていくことで、さらに地元のみなさんと馴染みの関係を作れるよう努力したい。
5	3	<input type="checkbox"/> ②地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グループホームの母体である老人ホームの行事の案内は随時行い、地元の住民の参加も多い。ボランティア活動の中でもグループホームの掃除などには地元から応援を頂いている。	○	周辺から来てもらうことは多くなっているが、ホーム側から地元に出かけることはほとんどできていないので、もっと職員がまず地域に交わる努力をする必要があると考えている。
6		<input checked="" type="checkbox"/> ③事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護者家族の会や民生委員の訪問を受け、高齢者介護、認知症介護の概論やグループホームでの目指しているものについて話す機会を設けている。	○	グループホームが地域に向けて発信できることを職員間で話し合いたい。
地域とのつきあい 3項目中 1項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I-3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	<input checked="" type="checkbox"/> ①評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を受けることによって、具体的に取り組むべき課題が明確になり、年間の目標ともなっている。その目標に向かって1年間職員は努力している。	○	外部評価から現在のホームにおける課題は明確になる。その課題がこれからの取り組みの目標となり、これからも職員全体で評価結果の共有に努めたい。
8	5	<input checked="" type="checkbox"/> ②運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回を目標に開催し、ホームの運営状況やご利用者の様子などを報告。提案や様々な問題についての話し合いをすることで、ホームとして新たな取り組みを見つけることができている。	○	会議で提案いただいたことの実践が伴わないことがあるので、タイミングよく実践に移せるように努めていきたい。
9	6	<input checked="" type="checkbox"/> ③市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症啓発の意味も含め、介護家族の会や民生委員協議会などの見学やグループホームの紹介等を市町の要請の元、積極的に協力している。	○	監査や運営推進会議時に受けている指摘や提案について、実践につなげていけるよう前向きに取り組みたい。
10		<input checked="" type="checkbox"/> ④権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	去年は施設研修で権利擁護の研修会を開催。現在利用者1名が成年後見制度を活用している。	○	現在利用している成年後見制度によって、権利擁護のあり方、考え方を習得できる良い機会として、これからも人権尊重の理念の実践に努力したい。
11		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	家族と利用者の関係、職員と利用者の関係について常に利用者中心に視点をおいて振り返るよう努めている。気になる言動や出来事は職員間でまず共有できるよう、記録への記載等や申し送りをしている。	○	虐待であったり人権に触れる事件であると認識すれば、必ず解決させる力量をもてるよう職員が自覚をもって努力していく。
理念を実践するための制度の理解と活用 5項目中 5項目					
I-4. 理念を実践するための体制					
12		<input checked="" type="checkbox"/> ①契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書と重要事項説明書をもとに、利用に際してもホーム全般に関する説明を家族に行っている。事前に見学や使用予定の居室の準備などで家族とは何回も話し合う時間がとれている。	○	初回相談から入居前の面接や入居日までの関わりにはできるだけ多くの時間をかけて十分な説明ができるように努めたい。
13		<input checked="" type="checkbox"/> ②運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には利用者2名が参加。利用者にとってなにか一番負担となり不満があるかを引き出せるよう、担当職員が中心となって利用者との関係作りをしている。	○	利用者の思いを引き出すのは困難な場合が多く、相当な時間を要しても妥協せずに利用者と同じ向き合う努力を重ねること。
14	7	<input checked="" type="checkbox"/> ③家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度は家族への手紙で日常の様子や体調をお知らせしている。しかし家族の来訪が多くなってきたので、あえて手紙が必要であるのか、と考えている。	○	電子メールによるホームとの情報の交換を希望する家族もおられ、その準備はできているので実際に運用できるようにしたい。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
15	8	<input checked="" type="checkbox"/> ④運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を常勤の主任とし、家族ともっとも身近な距離にいる立場で直接的な表現ではなくても家族の心情が察せられるような努力をしていると考える。第三者委員の存在も、玄関に表示している。	○	今後もホーム職員と家族の関係を大切に考え、職員は自らの姿勢に対して冷静で的確な判断ができるように研鑽を積みたい。
16		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行い、全員参加が基本となっている。ここでは業務の改善や日々の仕事の中から気付くことを話し合っている。業務内容や方法の変更はこの会議で決定する。	○	今後も運営には全職員の思いを確認しながら、進めていくことが重要と考える。
17		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事を計画したときや受診があるときには、そのための職員が加配できている。また、行事等ではご家族にも協力を仰ぎ、職員とともに参加してもらっている。	○	職員全員の協力し合える関係を今後も維持できるよう、管理者を中心に日頃から話し合いの時間をもっていきたい。
18	9	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員はほぼ固定しており、同一法人同一敷地内での異動もあるが最小限度の範囲で収め、利用者に極度の負担をかけないよう配慮している。	○	利用者にとって職員の大きな変容は絶対避けなければならない、運営者(施設長)との間で十分配慮できるよう、管理者は努力したい。
理念を実践するための体制 7項目中 7項目					
I-5. 人材の育成と支援					
19	10	<input checked="" type="checkbox"/> ①職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場外研修への参加を計画的に実施。認知症ケア関連雑誌や書籍の購入で、職員個々に学習する材料を提供。利用者個別カンファレンスでは、個々に異なる認知症を理解することに努力している。	○	職場内研修で認知症ケアについて、外部講師による勉強会を実施したい。
20	11	<input type="checkbox"/> ②同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域に認知症対応型サービス事業所があるので、利用者と職員が交流を深めたいと考えてきたが、以前実現できていない。	○	職員の交流を図ることで、お互いの事業所の取り組みから学べるのが期待できるので、是非実践したい。
21		<input checked="" type="checkbox"/> ③職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間の確保と休憩場所の有効な活用ができていない。利用者のそばを離れることができない現実がある。	○	利用者のことが気になりながらの休憩では休息にならないと職員が考えているが、出来る限り休息の時間をとることができるよう、配慮していく。
22		<input checked="" type="checkbox"/> ④向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	努力に対する評価は重要であり、随時管理者、運営者が共に状況把握に努め、的確な評価に努めている。	○	自己評価を全職員で共有することで、自ずと向上心につながる。これからも自己評価を怠らずに進んでいきたい。
人材の育成と支援 4項目中 3項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
Ⅱ-1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		<input checked="" type="checkbox"/> ①初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	昨年入居された利用者には、入居前から関わりを持ち、時間をかけて入居に対する納得が得られるよう説明を繰り返した結果、不安を強く感じることなく入居していただくことができた。	○	今後も利用者に対する姿勢を職員全体で共有し、不安や疑問を少しでも少なくしてもらえるよう、本人の気持ちに寄り添う努力をしていきたい。
24		<input checked="" type="checkbox"/> ②初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族との面接、相談には管理者や介護支援専門員があたり、グループホームに住まいを移すことで困りごとが解決されるのか、を家族と共に考えるようにしている。	○	これからは、入居が決まるか否かにかかわらず、認知症ケアについて介護家族の生活全般に関する相談なども含めて、窓口を広くして対応していきたい。
25		<input checked="" type="checkbox"/> ③初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主にはその時本人を担当している介護支援専門員を交えた相談に対応している。管理者やホームの介護支援専門員が相談窓口となっている。		
26	12	<input checked="" type="checkbox"/> ④馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	昨年入居された利用者に対し、入居前に直接グループホームに来てもらい他の利用者に紹介したり、本人の思いを聞けるよう、時間を設けることができた。		
相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 4項目中 4項目					
Ⅱ-2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	<input checked="" type="checkbox"/> ①本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	基本理念に掲げるとおり、職員は利用者とともに支えあい認め合う関係を目指して関係づくりを進めている。	○	今後も人生の大先輩である利用者の力に頼りながら、利用者とともに試行錯誤しつつ豊かな暮らしを目指したい。
28		<input checked="" type="checkbox"/> ②本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とホームとの距離は小さくつながりは一層太くなり、利用者の様子が家族にもしっかり伝わるように、できる限り連絡を入れている。ホーム便りは2号まで発行することができた。	○	それぞれの家族と利用者との関係、歴史は異なることを職員は認識し、その事情に応じた方法で、家族とともに支えることができるようにしたい。
29		<input checked="" type="checkbox"/> ③本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居されると疎遠になりがちな家族も多く、常時ホームで暮らす利用者のことを身近に感じてもらうような関係づくりを進めてきた。前年度よりは家族の来訪は多くなった。	○	家族も職員とともに身近なところで利用者の暮らしを支える大切な協力であることを、これからも大切に考えたい。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30		<input checked="" type="checkbox"/> ④馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	本人から馴染みの場所や人について聞きだすことは難しい場合も、家族から教えてもらうことで手がかりをつかめるよう努めているが、ホームを出て馴染みの場所に行く機会を作れていない。	○	支援の方法を考えている。職員だけではすべてできるものではないので、家族や地域の協力者の力を得て、馴染みの人や場とのつながりを回復したい。
31		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性についての確に把握するよう心がけている。気の合わない利用者同士のストレスをいかにして取り除くかに苦慮している。	○	良い関係が大切に保たれるよう、これからも支援をしていきたい。利用者同士のトラブルに対して、利用者の訴えには職員が分担して話をじっくり聞くようにしたい。
32		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	昨年入院中健康状態の改善なくそのまま利用が終了となった家族には、今後の施設利用に関する相談に応じ、その後も家族が困られることのないよう見守っている。	○	
新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 6項目中 6項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
Ⅲ-1. 一人ひとりの把握					
33	14	<input checked="" type="checkbox"/> ①思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を用いながら、一人ひとりの今までの生活史をまとめる中で、今の利用者の思いを知ろうと努力している。好きなこと、得意なことを職員間で共有できるようにしている。	○	センター方式のアセスメントを展開する中で、これからもより細やかな情報が見出せるよう職員全体で利用者個々に向き合っていきたい。
34		<input checked="" type="checkbox"/> ②これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を用いてこれまでの環境や馴染みの暮らし方を的確に把握できるよう努めている。	○	
35		<input checked="" type="checkbox"/> ③暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりのできる力を十分に知り、その力を活かす方法を検討し、できそうなことは実践している。	○	利用者個々の持てる力に気づくことが大切。今後いろいろな発見を職員全体で共有していきたい。
一人ひとりの把握 3項目中 3項目					
Ⅲ-2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	<input checked="" type="checkbox"/> ①チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族の来訪も多く、しばしば本人や職員と出会う機会があるので、プラン作成時に限らず、常日頃から介護計画について意見をだしている。	○	
37	16	<input checked="" type="checkbox"/> ②現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングを介護支援専門員が中心に実施。変化の多い利用者に対してもモニタリングのタイミングに限らず随時振り返り、計画の微調整をその都度行っている。	○	これからも、家族とのつながりを維持しながら、職員、家族それぞれの気づきや思いを共有して介護の方針が現状に即した内容になるようにしたい。
38		<input checked="" type="checkbox"/> ③個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を日々書いている。それらをまとめて毎月のまとめを担当職員がする。それを基にモニタリング、計画の見直しをしている。記録の共有に関して徹底できていないことがある。	○	記録には常に一日の出来事が記載されており、今後はその内容が職員間での共有が確実にできるよう努力する。確認欄の活用。
介護計画の作成と見直し 3項目中 3項目					
Ⅲ-3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	<input checked="" type="checkbox"/> ①事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	総合型福祉施設併設による地域のボランティアグループとのつながりがあり、活動拠点となっている本体老人ホームで行事の機会には参加している。職員間の互助機能を活用して、ホームの行事も計画し易い。		
多機能性を活かした柔軟な支援 1項目中 1項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		Ⅲ-4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40		<input checked="" type="checkbox"/> ①地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の定期的な訪問を受けて(運営推進会議)地元馴染みの方との出会いを楽しんでいる。ボランティアによる大正琴の演奏。地元消防団の夜回り。地域の児童合唱団の発表会など。	○	これからも、地域で起こっている出来事や取組などの情報を得て、利用者や家族に提案できるようにしたい。
41		<input checked="" type="checkbox"/> ②他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在までのところ、他のサービスを利用することが必要にはなっていない。		
42		<input checked="" type="checkbox"/> ③地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	9名の利用者のうち、昨年は1名の利用者について地域包括支援センターと協働して成年後見申し立てに必要な準備にあたった。	○	今後も、この経験を生かして利用者の権利擁護のために地域包括支援センターと協力して支援にあたりたい。
43	18	<input checked="" type="checkbox"/> ④かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はできる限り家族の付添をお願いし、ほとんどができています。必要時には主治医への連絡、情報交換にファックスや手紙を使う。あるいは受診に同行している。	○	今年7月より医療連携加算の算定を開始する。この体制機能を十分に発揮できるよう、看護師を中心として健康管理に気配りをしていきたい。
44		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医との連携を家族の納得の中で進めている。医師とはできる限り受診時に職員も家族とともに付添い、日々の生活支援に役立つアドバイスをもらうように努めている。	○	主治医との連携を今後も強めていきたい。
45		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師であり、医療連携加算体制の中で健康管理には特に配慮している。毎日の健康チェックを怠らず、基本的な生活習慣における体調面の把握もできている。	○	
46		<input checked="" type="checkbox"/> ⑦早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した際には職員全員で分担して面会に行き、本人の状況の把握と精神的なダメージを少なくするような働きかけができるよう努めた。退院の時期や退院後に向けた準備について主治医との検討会を設けた。		
47	19	<input type="checkbox"/> ⑧重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り介護の指針を作成したが、全職員との指針や看取り介護についての勉強会が十分にできていない。	○	グループホームとしての看取り介護に対する思いを全職員で共有できるように勉強会を実施し、職員間で議論したい。看取り介護についてはあくまでも本人、家族の意向によるものであることを確認していく。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48		<input checked="" type="checkbox"/> ⑨重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期に向けての対応はこれからの課題。看取り介護の指針を作成したが、これについて職員全体の共有が不十分である。	○	職員間、家族との間で、ホームにおいてできることとできないことの整理をする必要がある。そのうえで、利用者個々の重度化に対する対応の方針を確認しておく必要がある。
49		<input checked="" type="checkbox"/> ⑩住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時もあくまでも本人主体の考え方で対応する。必要なら情報交換や話し合いを重ね、その方法が本人にとって大きなマイナスにならないか、を考えるよう家族や関係機関への働きかけをしている。	○	今後も住み替えとなる利用者への対応は、本人の不利益にならないよう、グループホームが主体的に相談協力していく。
地域資源との協働 10項目中 9項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
IV-1. その人らしい暮らしの支援					
IV-1. (1) 一人ひとりの尊重					
50	20	<input checked="" type="checkbox"/> ①プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしている	入所時からすべての個人情報情報は施錠できる事務所のロッカーに保管し、日頃から個々の生活背景や好みに合わせた言葉かけをはじめとする付き合い方をしよう努力している。	○	今後も個々の持っているプライバシーの保護に努め、その違いに十分配慮しながら対応していきたい。
51		<input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々のわかる力、行動するペースなどに合わせて必要な支援をするよう努めている。	○	個々の持てる力を知る努力を続け、本人の意思に添った支援をしていく。
52	21	<input checked="" type="checkbox"/> ③日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは一定にせず、できる限り一人ひとりのペースを守れるよう支援している。一人になりたい、買い物に出かけたいなど、個々の思いを引き出す努力をしている。	○	利用者すべての思いが引き出せているわけではなく、伝わりにくい利用者についても、時間をかけて時間を大切に接していく努力を続ける。
その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重 3項目中 3項目					
IV-1. (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		<input checked="" type="checkbox"/> ①身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の身だしなみは、ほとんどの家族は、利用者を買物や理髪に連れ出してもらっている。衣装は4名の利用者は自分で選んでいる。		
54	22	<input checked="" type="checkbox"/> ②食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは下ごしらえや味見など、また食器の後片付けなどは利用者と共にしている。		
55		<input checked="" type="checkbox"/> ③本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物は利用者によって時にコーヒーを好むことがあるので、声をかけて選んでもらっている。酒やたばこの習慣のある人はいない。		
56		<input checked="" type="checkbox"/> ④気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄のタイミングや排尿量の特徴を知り、トイレへの誘導は本人の排泄への意欲が出るよう留意している(歩き回っている時にトイレまで誘導しうる)	○	中には排泄のタイミングがまったくあわず、トイレに間に合わないこともしばしば。また、特に夜間は容量の多いパットを使用することも皮膚トラブルの原因になるので注意する。これらを解決したい。
57	23	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は各利用者の意向を確認して、ゆったりとしたペースで入浴を楽しめるよう、時間をとっている。	○	

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼寝をするスペースを作っている。あるいは、自室に戻って一人で時間を過ごしている。		
その人らしい暮らしの支援 (2)基本的な生活の支援 6項目中 6項目					
IV-1. (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	<input checked="" type="checkbox"/> ①役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花の好きな人、歌が好きな人、料理が好きな人、などいろいろ得意なものを楽しみにしながら、できるだけ喜びのある暮らしになるよう支援している。	○	個々の輝きのある生活を目指して、これからも楽しみを多く作れるよう支援していきたい。
60		<input checked="" type="checkbox"/> ②お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との相談の上、こづかいとしてお金を持って買い物に出かけることがあるが、居室に置くと不用心なので職員が保管し、必要な時にお金を持って支払をしている。		
61	25	<input checked="" type="checkbox"/> ③日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、屋外の花の水やりなど、思い思いにホーム外でも活動できるよう、職員が見守り付き添っている。		
62		<input checked="" type="checkbox"/> ④普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	担当職員が中心となって、家族にも問いながら行きたいと思う場所に出かける機会を作ろうという準備はあるが、未だに実施できているのは数名の利用者。	○	職員の利用者への働きかけで希望する行先を考えて実行していく。出先でのいろいろな出会いが楽しめるような支援を続けたい。
63		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望する時には、家族に電話をかけ話ができるようにしている。また、孫や息子への手紙も職員の支援によって書くことがある。		
64		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の来所が増え、たびたび顔を合わせるができるようになってきた。来られてすぐに帰ることなく、しばらくは利用者の隣に座って談笑される。	○	これからは、地域の昔なじみの人達からも訪問してもらえるよう、ホームから地域に向けた何らかの働きかけが必要である。
その人らしい暮らしの支援 (3)社会的な生活の支援 6項目中 6項目					
IV-1. (4) 安心と安全を支える支援					
65		<input checked="" type="checkbox"/> ①身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束はない。他の利用者との共同生活を維持するために必要な安定剤の内服薬は、できるだけ必要最小限の範囲でおさまるよう、主治医と情報交換を綿密にとっている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	26	<input checked="" type="checkbox"/> ②鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夕方17時ごろから翌朝8時半ごろまでは玄関を施錠しているが、それ以外は玄関は開錠している。人が通るとチャイムになる仕組みにして、利用者が1人で外に出られることのないようにしている。		
67		<input checked="" type="checkbox"/> ③利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	行動の制限をすることなく、利用者の思うままに過ごしてもらう。職員は遠からず近からずの距離で、利用者の様子は把握している。		
68		<input checked="" type="checkbox"/> ④注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみや包丁はいつもしまいこむのではなく、見守りが不十分で危険が予測される時のみ、保管することになっている。		
69		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒防止について利用者ごとのケアプランに添って徹底して対応している。誤薬防止については、薬の確認を2人以上で行い、日付を入れて飲み忘れなどがないようにしている。	○	今後も定期的に緊急時の対応について復習し、会得して事故発生時には実践できるようにしたい。
70		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員全体で研修会を開催し救命救急法を学んでいる。緊急時の対応については、常時マニュアルをそばに置いている。	○	今後も定期的に緊急時の対応について復習し、事故発生時には実践できるようにしたい。
71	27	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回実施。火災発生を想定し、それぞれ違う非難経路を選んで行い、緊急時の利用者の移動スピードや反応を知ることができた。地域では地元消防団による定期点検を実施していただいている。	○	地元消防団の協力をいただけるようになったことは大変心強い。今後も地元の協力が得られるよう、ホームの様子を定期的に発信して理解を得られるようにしたい。
72		<input checked="" type="checkbox"/> ⑧リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	危険を伴うことや予測できる危険な部分について十分家族に説明するとともに、生活の広がりや損なうような方法は極力避けるよう、ホームとしての理念を基本に家族に理解を求めている。		
その人らしい暮らしの支援 (4)安心と安全を支える支援 8項目中 8項目					
IV-1. (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		<input checked="" type="checkbox"/> ①体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日午前中に体温、血圧、脈拍を測定し、排便や排尿状況が一目瞭然にわかるチェック表を用いて変化がすぐにわかるようにしている。必要時は看護師に報告し対応の判断をしている。		

自己評価項目	外部評価項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
74		<input checked="" type="checkbox"/> ②服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容について記載されているものを全員薬局からもらいファイルにして、薬の副作用も含め全職員で理解している。薬と症状の関連性について看護師が判断できるよう、変化があれば記録に残す。		
75		<input checked="" type="checkbox"/> ③便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の体操や寒天をデザートに出すことによって、いくらかの便秘解消につながっていると考え、慢性的な便秘には排便状況を見ながら下剤に頼っている。	○	便秘による精神的なイライラなど、生活に直接影響があるので、極力便秘を解消する方法を積極的に考え実践したい。寒天デザートの取り組みは今後も継続。
76		<input checked="" type="checkbox"/> ④口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔洗浄を基本として、それぞれの状態に応じた支援をしながら口腔内の清潔を保っている。週に一度は義歯を洗浄液につけている。歯ブラシの当て方も職員による指導で改善を図っている。	○	規則的な食後歯磨きの習慣作りを継続したい。
77	28	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量や飲水量を記録している。		
78		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルを設置し、それにそって予防のための対策を実践している。		
79		<input checked="" type="checkbox"/> ⑦食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日洗浄と乾燥に努め、生ものを扱うときには素手では触らずディスポのビニール手袋を使用。		
その人らしい暮らしの支援 (5)健康面の支援 7項目中 7項目					
IV-2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
IV-2. (1) 居心地のよい環境づくり					
80		<input checked="" type="checkbox"/> ①安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	出入り口には段差がなく、老人車や車椅子の出入りに問題ない。玄関とわかるようにプランターに花を植えたり玄関内側にも花や置物など、気持ちが和む雰囲気を作るよう努めている。		
81	29	<input checked="" type="checkbox"/> ②居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	随所に暖簾や壁掛け、利用者の描いた絵などを飾り、殺風景になり勝ちな場所を生活感のあるものになるよう配慮している。	○	建物が総合型老人福祉施設に併設しているため施設仕様となっており、家という雰囲気を持たせるには更に工夫が必要と考える。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82		<input checked="" type="checkbox"/> ③共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の居場所を求めて幾通りもの場所があるので、個々に時間を過ごすことができる。		
83	30	<input checked="" type="checkbox"/> ④居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の空間活用ができておらず、入居当時からなにも風景が変わらないという利用者も多く、居室の雰囲気づくりについては一考の必要がある。	○	1人になりたいとき、家族が来てくれたときなどにゆっくりくつろげる居室ができるよう、9名それぞれの思いを知り、実践に取り組みたい。
84		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓が大きく、風の通りも非常に良い。冬は床暖房を用い、夏は基本的に冷房は使用していない。		
生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり 5項目中 5項目					
IV-2. (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		<input checked="" type="checkbox"/> ①身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレに手すりを補充して利用者の安全・安心に役立っている。老人車を使って移動する利用者のために、通路は広く確保している。	○	一層安全面を重視して、常に状況の確認や判断をする努力を続けたい。
86		<input checked="" type="checkbox"/> ②わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	センター方式によるアセスメントを積み重ね本人の持てる力を正しく把握できるよう努力している。困難な部分をどのような支援でカバーするかは随時カンファレンスの中で職員同士の意見を中心にまとめ実践している。		
87		<input checked="" type="checkbox"/> ③建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	裏の畑で野菜を育て、季節の花も育てているが、これらに水をゆったり成長を楽しんだりすることも利用者の暮らしの上で楽しみの一つ。テラスにはいつでもくつろげる椅子、テーブルがあり、昼食は個々で摂ることもある。		
生活環境づくり (2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり 3項目中 3項目					

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)
		↓○印欄
88		①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
	項 目	取 り 組 み の 成 果 14 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)

		↓○印欄
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

評価結果整理表

個 別 表		□のチェック項目数
I 理念に基づく運営		
－1.	<input type="checkbox"/> 理念と共有	3 項目/3項目
－2.	<input type="checkbox"/> 地域との支え合い	1 項目/3項目
－3.	<input type="checkbox"/> 理念を実践するための制度の理解と活用	5 項目/5項目
－4.	<input type="checkbox"/> 理念を実践するための体制	7 項目/7項目
－5.	<input type="checkbox"/> 人材の育成と支援	3 項目/4項目
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		
－1.	<input type="checkbox"/> 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4 項目/4項目
－2.	<input type="checkbox"/> 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6 項目/6項目
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		
－1.	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの把握	3 項目/3項目
－2.	<input type="checkbox"/> 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3 項目/3項目
－3.	<input type="checkbox"/> 多機能性を活かした柔軟な支援	1 項目/1項目
－4.	<input type="checkbox"/> 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	9 項目/10項目
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		
IV－1. その人らしい暮らしの支援		
－1. (1)	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの尊重	3 項目/3項目
－1. (2)	<input type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援	6 項目/6項目
－1. (3)	<input type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援	6 項目/6項目
－1. (4)	<input type="checkbox"/> 安心と安全を支える支援	8 項目/8項目
－1. (5)	<input type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援	7 項目/7項目
IV－2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		
－2. (1)	<input type="checkbox"/> 居心地のよい環境づくり	5 項目/5項目
－2. (2)	<input type="checkbox"/> 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり	3 項目/3項目

総合評価

I 理念に基づく運営 (項目/5項目)について

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 (項目/2項目)について

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント (項目/4項目)について

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 (項目/7項目)について

V サービスの成果に関する項目について

☆サービスの質の向上に向けて、取り組む課題と優先順位、具体的な行動の計画

事業者名称

評価年月日： 年 月 日

前回評価年月日： 年 月 日

サービスの質の向上に向け取り組む課題			取り組み期間 (○年○月～ ○年○月まで)	改善に向けた具体的 な行動	達成度評価	次期 評価 実施 時期
評価項目 番号	優先 順位	内 容				